

家具

家具職人たちが日本の伝統的技術に挑む

日本の家具は、床に直接座ることを生活の基本とした収納のための家具作りから始まりました。現在我が国では、椅子・テーブル・チェスト類の西洋家具と日本の伝統的な技術を取り入れた和家具に分類され、時代のニーズに合った木製製品を製作しています。

競技概要 競技時間 11時間30分(1日目7時間/2日目4時間30分)

材料は木の温もりを感じることができるタモの無垢材を使い、課題は、天板、帆立、脚、框扉、抽斗で構成されています。天板と帆立の仕口には指物の要素を入れた「前後留7枚蟻組接ぎ」、帆立と地板・中地板には「三方胴付き」、脚と地板(本体)は寄せ蟻で接合しています。抽斗には「包蟻5枚組接ぎ」と「5枚組接ぎ」、框扉には「小根付き二方胴付き柄組」をそれぞれ要素として入れました。手加工、機械加工ともに熟練した技能が求められます。

Point

本体、框扉、抽斗、脚のうちどの部分から手掛け、どのような手順で製作するかが競技のポイントになります。作品の表面を平鉋で仕上げたり、曲率部分を反り台鉋や南京鉋で仕上げる鉋掛け作業の醍醐味があります。機械加工については機械の台数や使用制限が設けられ、全選手が交代で使用するので、作業工程の進め方が重要になります。



第31回 競技課題

前回大会 金メダリストからメッセージ!

「ものづくり」の業界を、一緒に盛り上げていきましょう!

清水建設(株) 東京木工場
北川 祐也 さん